

6次産業の推進めざす

トマト栽培行っ農園を視察

知団
愛議
党県

地域資源を活用した農林水産物の促進をめざす公明党愛知県議団(渡会克明団長)はこのほど、生産者が加工や販売までを手掛ける6次産業に取り組む、名古屋市中川区の「飯田農園」(飯田実代表)を訪れ、同園が行っているトマト栽培と商品開発に向けた取り組みを視察した。

6次産業とは、1次産業(農林漁業)、2次産業(製造業)、3次産業(小売業)を融合させ、新たな付加価値を生み出すもの。所得の向上や雇用の創出などの効果が期待されている。国から6

次産業の認定を受けた農林漁業者は、商呂開発・販路拡大について県からアドバイスを受けられるほか、施設整備への助成を得られる。

飯田農園では、カツオや昆布など海の幸を肥料として使用し、高い糖度の「miuトマト」を栽培している。さらに、収穫したトマトを加工し、トマトジュースやトマトパウダーとしても販売している。

一行は、県の担当者から6次産業について説明を受けた後、飯田農園で商品開発などの話を聞いた。飯田代表は「新しい発想で商品を開発しながら、トマトの魅力を広く伝えていきたい」と話していた。

視察後、渡会団長は「6次産業が地域活性化の推進役となるよう、県として全力を挙げる」と語った。

飯田農園で商品開発についての説明を受ける党愛知県議団(左側6人)

